



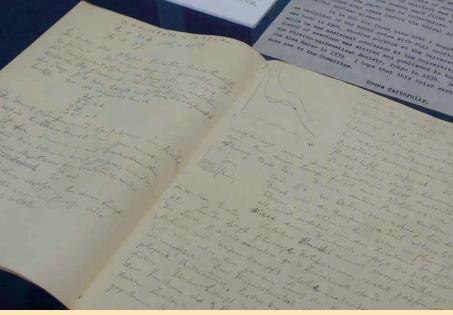
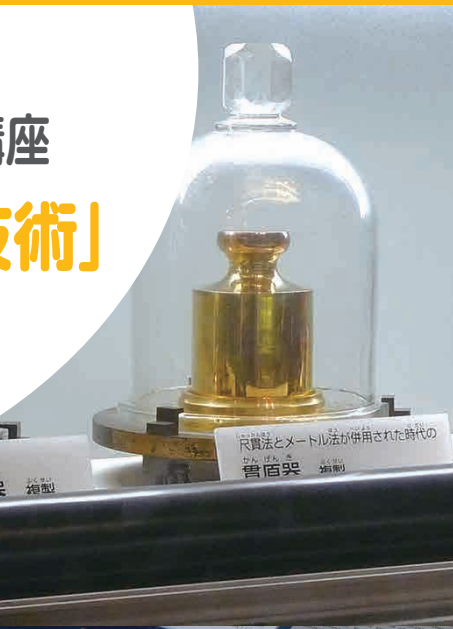
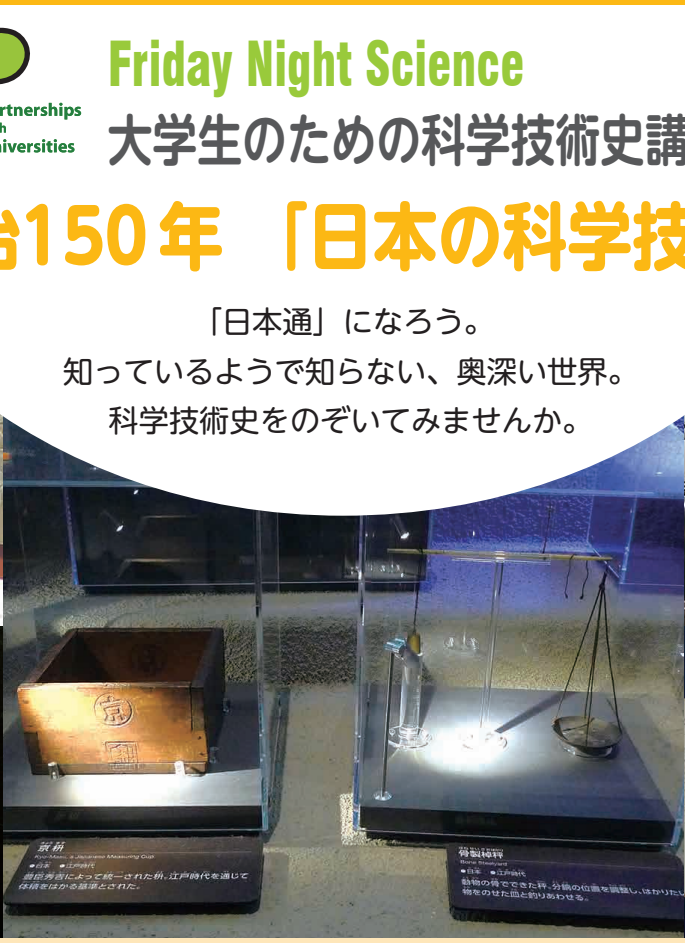
Friday Night Science

大学生のための科学技術史講座

明治150年 「日本の科学技術」

「日本通」になろう。

知っているようで知らない、奥深い世界。
科学技術史をのぞいてみませんか。



平成 29 年度受講者の声 (一部抜粋)

教科書や普段の生活ではなかなか触れることのない分野の話をたくさん聞けたので、どんな風に科学と向き合うか、引き出しが増えたように思う。楽しかったです!!

時代にしても、分野にしても、とても幅広く様々な話が聞けて面白かった。単に事実を学ぶだけでなく、講師の方々がどんな視点や意見を持っているのかなどが聞けたのがとても良かった。

1h30という時間が本当に短く感じられた。とても楽しかった。

理系でなくても分りやすく、かつ専門的で聞きごたえがあった。

展示物を作っている方の貴重なお話を聞くことができ、博物館をみる視点が変わりました。

対象：主に大学生・院生・専門学校生（一般の方も受講いただけます）

会場：国立科学博物館（上野地区）

開講期間：平成 30 年 10 月 12 日、10 月 26 日、11 月 9 日、11 月 16 日、12 月 7 日、12 月 21 日 全 6 回
各金曜日の 18：00～19：30

募集人数：40 名程度

受講料：12,340 円*大学パートナーシップ入会校の学生は 6,170 円
※この講座は 6 回の連続講座です。1 回単位での受講はできません。

★「大学パートナーシップって何？」

「私 / 僕の大学はパートナーシップに入っているのかわからない」

そんなときは、こちらで一覧をご確認下さい。

また、下記の国立科学博物館 HP でもご確認いただけます。

<http://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/01.html>

※入会校は、随時更新されます。



お申し込み・お問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部 学習課

【国立科学博物館 大学パートナーシップ】担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9876 FAX：03-5814-9898 E-mail：upartner@kahaku.go.jp

受講までの流れ

① お申込み

下記の情報をご記入の上、E-mail でお申込み下さい。

【件名】『大学生のための科学技術史講座受講申込み』

①住所（郵便番号まで）②氏名（ふりがな）③年齢 ④電話番号

⑤メールアドレス ⑥学校名 ⑦学部・専攻

※⑥・⑦は現役学生のみ。

※頂いた個人情報は、本講座に付随する目的のみに使用いたします。

申込み締め切り：**平成 30 年 9 月 27 日 (木) 必着**

② 受講者決定

受講決定者には、9 月 28 日 (金) までに、受講の可否をお知らせします。

応募者多数の場合には、「大学パートナーシップ」入会校の学生を優先させていただきます。あらかじめご了承ください。

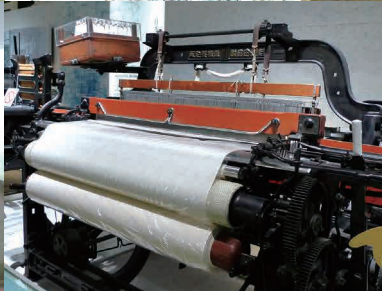
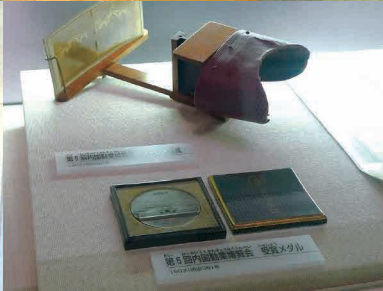
③ 受講料のお支払い

受講料のお支払いなど詳細は、受講決定通知と共にご案内いたします。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science



国立科学博物館は、自然史及び科学技術史研究に関する中核的な博物館であり、それらの研究成果を積極的に教育事業として発信しています。科学技術史研究の成果発信の場として開講する「大学生のための科学技術史講座」は、我が国の産業、文化を支えてきた世界に冠たる日本の「ものづくり」にスポットを当てた講座です。

Curriculum カリキュラム ※カリキュラムは変更することがあります。

第1回 10月12日(金)

産業技術史資料情報センター センター長 鈴木 一義

【明治150年】日本のものづくり文化論

日本のものづくりやサービス産業成長のキーワードとして、「もったいない」や「おもてなし」のような日本文化の視点が注目されています。実はそれは無意識の中に、途切れることなく続いてきているのですが、グローバル化の中、それを意識することが必要になったということでしょう。そのようなものづくり文化を、事例をあげて概説します。

第2回 10月26日(金)

科学技術史グループ 研究主幹 久保田 稔男

【明治150年】日本の近代建築

洋の東西を問わず、建築は人類の生存にとって欠くことのできない存在です。世界各地で地域の気候に根ざした独自の建築が造られてきましたが、文化の交流に伴って、時に影響しあい、時に反発して建築も多様に変化しました。日本の建築も例外ではなく、特に明治以降、文明開化のかけ声とともに西洋の建築技術が流入し、伝統的な建築とは異なった、新しい建築が各地に建てられ、現在に至っています。上野公園にある建築を題材に、日本の近代建築の歩みを概観します。

第3回 11月9日(金)

科学技術史グループ 研究員 有賀 暢迪

【明治150年】明治日本、西洋の科学技術と出会う

明治時代の人々は、新しく入ってきた西洋の科学技術をどのようなものとして捉え、それをどのように受け入れていったのでしょうか。物理の場合を主な例として、近代的な理工学教育・研究が日本で始められた経過を見ていきます。

第4回 11月16日(金)

科学技術史グループ 研究主幹 沓名 貴彦

【明治150年】出土遺物から探る科学技術

日本では、様々な開発や工事に伴い発掘調査が行われます。発掘調査で出土した遺物の中には、当時の科学技術を知る手がかりとなるものも多く含まれています。ここでは、金や銀の生産技術に関連する遺物に着目して、その調査から明らかとなってきた金銀生産の歴史を考えたいと思います。

第5回 12月7日(金)

産業技術史資料情報センター 副センター長 亀井 修

【明治150年】アントロポシーン：現代社会と科学技術

人類の地球環境への影響が著しく増大した時代の諸課題の把握と解決のために考案された「アントロポシーン（人新世）」は、層序の学術用語になろうとしています。アントロポシーンをもたらした「科学技術」や「イノベーション」、過去・現状・近未来を含む日本や世界の産業技術史的「発展」などを話題に、メタ分析から得られつつある知見を中心に現代社会と科学技術を概観します。

第6回 12月21日(金)

科学技術史グループ グループ長 前島 正裕

【明治150年】過去から未来を考える

昔の人が考えた未来予想について、当時の科学や技術と比較しつつ、当たっている事、あたらなかった事の原因を考え、現在の科学・技術と未来を考えます。